

科目名			<b>産業衛生学研究概論</b>				
科目責任者 森 晃爾 (産業衛生学専攻委員長)							
担当者	堀江 正知、	担当者	河井 一明、	担当者	李 云善、	担当者	森本 泰夫、
担当者	森 晃爾、	担当者	永田 智久、	担当者	江口 尚、	担当者	大神 明、
担当者	池上 和範、	担当者	岡崎 龍史、	担当者	盛武 敬、	担当者	藤野 昭宏、
担当者	宮内 博幸、	担当者	石松 維世、	担当者	石田尾 徹、	担当者	庄司 卓郎、
担当者	大和 浩、	担当者	姜 英、	担当者	原 邦夫、	担当者	河村 洋子、
担当者	中谷 淳子、	担当者	樺田 尚樹				
開講時期: 1年次		単位数: 4 単位		時間数: 90分× 30 回			
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p style="padding-left: 40px;">産業衛生学研究の基盤となる職場や作業に内在する有害要因とそれによる有害な健康影響の評価や予防に関する多面的な知識と研究手法の概要を理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職場や作業に内在する主な有害要因の有害性について説明できる。</li> <li>2) 主な職業性疾病や作業関連疾患の特徴について説明できる。</li> <li>3) 電離放射線等の物理的要因による有害な健康影響の予防策の概要について説明できる。</li> <li>4) 化学物質による有害な健康影響の予防策の概要について説明できる。</li> <li>5) 労働者の心の保持増進(メンタルヘルス)に関する課題とその評価方法、施策について概要を説明できる。</li> <li>6) 労働者の疲労やヒューマンエラーの評価と改善の概要について説明できる。</li> <li>7) 労働者の健康の保持増進に関する課題と施策の概要について説明できる。</li> <li>8) 産業衛生分野の政策やリスクアセスメントの概要について説明できる。</li> <li>9) 産業衛生分野の看護学的な評価と施策の概要について説明できる。</li> <li>10) 産業衛生分野の工学的な評価と施策の概要について説明できる。</li> <li>11) 産業衛生学研究に必要な統計学や疫学の主な手法を使うことができる。</li> <li>12) 産業衛生学研究に関する倫理のあり方について説明できる。</li> </ol>							
● 評価方法		講義での討論100%で総合評価する。					
● 参考文献		講義の中で必要に応じ紹介する。					

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1, 2	産業衛生学入門	職業性疾病の予防に関係する医学、工学、保健学、心理学、法学等に基づく学際的な科学を基盤とした産業衛生学の特徴的な視点、歴史的な発展、法令や専門職の制度、労働衛生の現状、将来的な課題等を理解する。	堀江
3, 4	化学物質管理学	職業がんの歴史と原因物質についてまとめ、発がん性物質の管理取り扱いの現状について講義やカンファレンスを通して学び、理解する。	河井 李
5, 6	職業性疾病予防学	様々な職業性肺疾患のうち、じん肺、石綿を含む職業性肺腫瘍、職業性喘息、過敏性肺炎などを中心にその特徴、基礎的な病態生理を習得するのが目的である。さらに各種の職業性肺疾患の歴史や現状を学び、産業医学的意義を理解する。	森本
7, 8	産業保健政策学	産業保健活動の実施には、方針と存在するリスクに基づき仕組みを構築した上で、労働者の健康課題を継続的に改善するマネジメント的な手法と、産業保健専門職の立場から事業者と労働者を顧客として位置づけ、サービスを提供するマーケティング的手法がある。その概念と応用方法について学ぶのが、産業保健政策学の目的である。	森 永田
9, 10	産業精神保健学	我が国の産業精神保健の歴史を、他の産業保健活動や地域医療等と関連づけながら概観し、その現状を、研究および政策の動向を含めて整理し、今後、産業精神保健領域で研究および議論されるべき事項(労働者のメンタルヘルスに関する評価と改善、職場復帰支援の方法論など)とその方向性について理解する。	江口
11, 12	作業関連疾患予防学	職域における産業保健の課題として、特に先進諸国においては従来の職業性疾病に代わり重要な対策対象となっている作業関連疾患の範囲、就業との関連、発症および進展予防に資する対策について理解し、現場での対策、教育の方法を習得する。受講者は個々の範疇に属する疾患については基礎知識を有することを前提して、事業においては対策実施の企業活動上の意義、効果についてのエビデンスを提示し、適宜ケースメソッド教授法による討論を組み入れ、また演習ではグループワークによる課題への対策案の作成を通じて、実践力を身につけることを図る。	大神 池上

回	項目	内容	担当教員
13, 14	放射線障害予防学	放射線障害の歴史から、これまでのどのような障害があり、どのように対策を講じてきたのかを講義を通して学び理解し、今後起こりうる新たな問題点や対策方法を検討していくことが目的である。	岡崎盛武
15, 16	産業衛生学研究の歴史と倫理	産業衛生学研究の歴史的展開と現在の課題及び産業衛生学の研究倫理の特徴について参加型講義やカンファレンスを通して学び理解し、産業衛生学研究の歴史、意義、研究倫理のあり方などの基本を習得することが目的である。特に、人を対象とした産業衛生学研究の科学的・社会的及び倫理的意義について理解することを目標とする。	藤野
17, 18	作業環境計測入門	作業環境空気中有害物質の最新の計測技術、また、空気中に浮遊する細菌や真菌の最新の計測技術・評価方法について講義やカンファレンスを中心に学び、最新の計測制御手法の習得を目指す。	宮内石松
19, 20	産業衛生工学	有害化学物質の性質、作業環境中の挙動、評価、改善手法について講義やカンファレンスを中心として、産業衛生工学の基本の習得を目指すのが目的である。	専攻委員長 石田尾
21, 22	人間工学	疲労、ストレス、メンタルワークロードの評価における心理生理学的手法とその例を解説する。 ヒューマンエラーが原因とされる事故事例について、人間工学的改善方法とシステムの間人間工学的設計について解説する。	専攻委員長 庄司
23, 24	健康開発科学領域の未知の課題	健康開発科学領域の研究(運動、栄養、喫煙)に関する介入研究についての最新の知識を習得し、これから職域で介入研究を進めるにあたって必要な介入群と対照群の設定方法について理解する。単なる講義のみでなく、討論や演習を積極的に取り入れ、実践的な知識の習得を目指す。	大和姜
25, 26	リスクアセスメントの実際	化学物質のリスクアセスメント、およびリスクの認識とリスクの実際の差を埋めるためのリスクコミュニケーションについて、講義で具体的な事例を紹介し、グループ討議を通して、リスクアセスメントの基本的な枠組みについて理解を深めることが目的である。	原河村

回	項目	内容	担当教員
27、28	産業保健看護学	<p>産業保健における看護学の位置づけとその歴史的展開や現在の課題及び今後の展望について、参加型講義やカンファレンスを通して学び理解する。また、看護の視点からの「労働と健康の調和をはかる」ことの本質とアプローチ方法の特徴を理解する。これらを通して、産業保健における課題解決に向けた多職種連携の在り方を検討する。</p>	中谷
29、30	生物統計学・疫学	<p>産業保健疫学領域で応用されている生物統計学や疫学手法について論文を中心に批判的に熟読する。批評や精読に用いる産業保健疫学関係の論文は、国内外において英文で出版された原著論文を中心に行う。また、最新の研究手法に関する知識を習得し、これからの未知の課題や予測しえる課題について考える。講義のみではなく、ディベート等を通して実践的な知識の習得を目指すことから、データの解析方法、論文の書き方、結論の導き方等についても触れる。</p>	櫻田